

Economic Indicators

発表日: 2022年9月2日(金)

主要経済指標予定(2022年9月5日~9月9日)

(株)第一生命経済研究所 経済調査部
日本経済短期チーム (TEL: 03-5221-4525)

(9月5日~9月9日の主なイベント、指標予定)

	指標名	当社予測	市場予測	市場予測レンジ	前回結果
9月5日 (月)					
9月6日 (火)	8:30 7月毎月勤労統計 名目賃金(前年比)	—	—	—	+2.2%
	8:30 7月家計調査(二人以上の世帯) 実質消費支出・全世帯(前年比)	+4.6%	+4.2%	+1.9%~+5.9%	+3.5%
	実質消費支出・勤労者世帯(前年比)	+0.1%	+0.7%	▲0.9%~+5.8%	+4.0%
	8:30 7月家計消費単身モニター				
	8:30 7月消費動向指数				
	8:30 7月家計消費状況調査				
9月7日 (水)	14:00 7月消費活動指数(旅行収支調整済) 実質季節調整済み(前月比)	—	—	—	+0.0%
	14:00 7月景気動向指数・速報 CI一致指数(前月差)	+1.4pt	+1.4pt	0.0pt~+1.6pt	+3.7pt
	CI先行指数(前月差)	▲0.7pt	▲0.7pt	▲0.8pt~0.0pt	▲0.3pt
9月8日 (木)	8:50 4-6月期GDP2次速報 実質GDP成長率(前期比)	+0.7%	+0.7%	+0.6%~+1.0%	+0.5%
	(同年率)	+3.0%	+2.9%	+2.5%~+4.0%	+2.2%
	名目GDP成長率(前期比)	+0.5%	+0.5%	+0.3%~+0.7%	+0.3%
	GDPデフレーター(前年比)	▲0.4%	▲0.4%	▲0.5%~▲0.3%	▲0.4%
	8:50 7月国際収支統計 経常収支(原数値、億円)	+5,617	+7,950	▲792~+10,665	▲1,324
	8:50 8月貸出・預金動向 国内銀行貸出残高(前年比)	—	—	—	+2.1%
	14:00 8月景気ウォッチャー調査 現状判断DI(季節調整値)	42.9pt	43.7pt	42.9pt~47.5pt	43.8pt
	先行き判断DI(季節調整値)	41.8pt	44.3pt	41.8pt~48.4pt	42.8pt
9月9日 (金)	8:50 8月マネーストック M2(前年比)	+3.5%	+3.4%	+3.2%~+3.5%	+3.4%
	M3(前年比)	+3.0%	+3.0%	+2.8%~+3.1%	+3.0%
	広義流動性(前年比)	+3.9%	+3.9%	+3.8%~+3.9%	+3.8%
	13:30 7月特定サービス産業動態統計調査				

4-6月期GDP 2次速報・実質GDP成長率 当社予想：前期比年率+3.0% 中央値：同+2.9%

実質GDP成長率は前期比年率+3.0%（前期比+0.7%）と、1次速報の前期比年率+2.2%（前期比+0.5%）から上方修正されると予想する。法人企業統計の結果を受けて設備投資と在庫投資が上方修正されるとみられることが影響するだろう。設備投資の上方修正が見込まれる点はポジティブで、1次速報対比で内容も良化する見込み。4-6月期は、感染がいったん抑制されていたことによって個人消費が高い伸びとなったことと、設備投資の改善によって比較的高い成長が実現している。

（シニアエグゼクティブエコノミスト：新家 義貴）

7月実質消費支出（二人以上の世帯、全世帯） 当社予想：前年比+4.6% 中央値：同+4.2%

7月の実質消費支出は、前月比▲0.7%の減少を予想する。感染状況の急激な悪化に伴い、サービス消費を中心に減少したと予想する。先行きについては、経済活動が徐々に正常化に向かう中で回復していくとみるが、物価高による実質可処分所得の減少が下押し圧力となり、回復ペースは緩やかなものに止まるだろう。（主任エコノミスト：小池 理人）

7月景気動向指数 C I一致指数／C I先行指数 当社予想：前月差+1.4pt／▲0.7pt 中央値：同+1.4pt／▲0.7pt

C I一致指数を前月差+1.4ポイントと2ヶ月連続の上昇を予想する。内訳では、鉱工業生産指数や耐久消費財出荷指数、投資財出荷指数など、生産・出荷関連のプラス寄与が大きい。中国のロックダウン解除により供給制約が緩和されたことで自動車生産が大幅に持ち直したことに加え、設備投資需要の拡大から資本財の出荷が増えたことなどが押し上げ要因となっている。なお、内閣府によるC I一致指数の基調判断は6ヶ月連続で「改善」となることが予想される。

（シニアエグゼクティブエコノミスト：新家 義貴）

7月国際収支・経常収支（原数値） 当社予想：+5,617億円 中央値：+7,950億円

7月の経常収支（季節調整値）を▲1,276億円と予想する。原油高による輸入金額の押し上げが続き貿易赤字が拡大したことで、7月の経常収支は赤字転化となる可能性が高い。所得収支についても、先月の大口配当受取が剥落することで、黒字幅を縮小させる見込み。先行きは、欧米を中心とした景気減速懸念が強まっていることから輸出の下押し圧力は大きく、当面は高水準での貿易赤字が続く公算が大きい。円安を追い風とした堅調な所得収支が下支えすることで経常赤字が今後定着するとはみていないものの、目先は小幅の黒字ないしは小幅の赤字での推移が続くだろう。

（副主任エコノミスト：大柴 千智）

8月景気ウォッチャー調査 現状判断DI／先行き判断DI（季節調整値） 当社予想：42.9pt／41.8pt 中央値：43.7pt／44.3pt

8月景気ウォッチャー調査の現状判断DIを42.9pt、先行き判断DIを41.8ptと予想する。8月も高水準での国内感染が継続したが、行動制限が課せられていなかったこと等を背景に、新型コロナの悪影響は徐々に緩和しはじめたとみている。一方で、資源高を背景とした販売価格の上昇が重荷となり、小売業や製造業を中心に小幅の低下が続いたことで、現状判断、先行き判断ともに3カ月連続のマイナスとなるだろう。（副主任エコノミスト：大柴 千智）

図表1

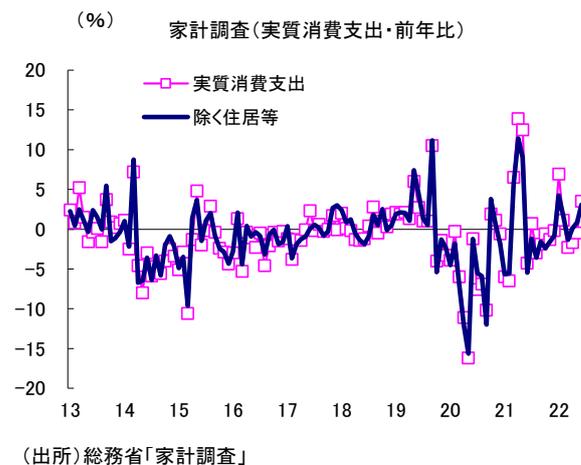
2022年4-6月期GDP2次速報予測

(%)	
実質GDP (前期比年率)	0.7 3.0
内需寄与度 (うち民需) (うち公需)	0.7 0.3 0.2
外需寄与度	0.0
民間最終消費支出	1.1
民間住宅	▲ 1.9
民間企業設備	2.0
民間在庫変動(寄与度)	▲ 0.3
政府最終消費支出	0.5
公的固定資本形成	1.2
財貨・サービスの輸出	0.9
財貨・サービスの輸入	0.7

※断りの無い場合、前期比(%)

(出所)内閣府「国民経済計算」、第一生命経済研究所

図表2

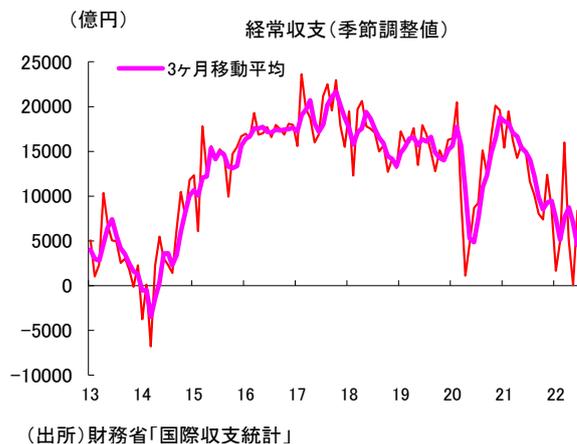


図表3

一致CI



図表4



図表5

(DI) 景気ウォッチャー調査(季節調整値)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。